授業科目名	ボランティア論			担当教員	馬田 英樹	
開講年次	1年後期	セメスター	1	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	選択	授業形態	講義・演習	使用教室		
授業の目的	国際交流・支援、災害救援・支援、地域の活動などに必要なボランティアの考え方とNGO・NPO・地域の活動について学習し、理解を深め、実践力を獲得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアに関する様々な捉え方とその多様な形態を理解し、説明することができる。 2. 身近な地域でのボランティア、被災地の復興支援ボランティア、青年海外協力隊等の海外ボランティア等、それぞれの経験者の体験談を聞き、ワークショップ等を通して自分の考えを整理しながら、ボランティアに必要な感性を身につけることができる。 3. 演習を通してボランティア活動の計画・実施・検証等の実践力を養うと共に、各自のボランティア観を形成し、社会課題の解決に取り組むことができる。 					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	本科目は、ボランティアに必要な感性やボランティア観を形成することを目標に掲げているが、これらは、今後、看護専門分野を学び、各自の看護観を形成する上での基盤の一つになると位置づけている。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
	○		◎			
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション：グループ分け、学生との意見交換 ボランティアとは？(1)：一般的なイメージと本来の意味	講義	ボランティアの概念について理解（復習）	60分	馬田	
2	ボランティアとは？(2)：歴史と文化的・宗教的背景、現代的課題、NPO / NGO について	講義	ボランティアの歴史と現代的課題について整理（復習）	60分	馬田	
3	ボランティアとは？(3)：多様な形態とその意義について（国内 / 海外、短期 / 長期、緊急援助 / 開発協力等）	講義	ボランティアの形態や意義について整理（復習）	60分	馬田	
4	ボランティアの実際(1)：地域でのボランティア活動事例	講義	具体的なボランティア活動を理解（復習）	60分	馬田・ ゲスト スピーカー	
5	ワークショップ(1)：地域でのボランティア活動について	講義 / 討議	地域でのボランティア活動について自分の考えを整理（予習）	60分	馬田	
6	ボランティアの実際(2)：被災地でのボランティア活動事例	講義	具体的なボランティア活動を理解（復習）	60分	馬田・ ゲスト スピーカー	
7	ワークショップ(2)：被災地でのボランティア活動について	講義 / 討議	被災地でのボランティア活動について自分の考えを整理（予習）	60分	馬田	

8	ボランティアの実際(3):海外でのボランティア活動事例	講義	具体的なボランティア活動を理解(復習)	60分	馬田・ゲストスピーカー
9	ワークショップ(3):海外でのボランティア活動について(レポートの課題を提示)	講義/討議	海外ボランティア活動について自分の考えを整理(予習)	60分	馬田
10	事例演習(1):ボランティア活動計画表の説明・事前学習	講義/演習	活動計画表の理解と事前準備(復習)	60分	馬田
11	事例演習(2):問題意識と課題設定	講義/演習	自分の問題意識と課題設定について整理(復習)	60分	馬田
12	事例演習(3):上位目標と活動目標について	講義/演習	課題解決のための上位目標と実現可能な活動目標を設定(復習)	60分	馬田
13	事例演習(4):具体的な活動と指標について	講義/演習	具体的な活動とその指標を設定(復習)	60分	馬田
14	事例演習(5):活動結果の確認について	講義/演習	ボランティア活動計画表の完成(復習)	60分	馬田
15	グループ毎に演習の発表 課題レポートへのフィードバック	講義/発表	各グループで発表の準備(予習)	60分	馬田
先行履修科目					
テキスト	必要に応じてプリントを配布				
参考文献	1) 岡本 栄一 他:ボランティアのすすめ—基礎から実践まで(実践のすすめ). ミネルヴァ書房, 2005. 2) 田中優:幸せを届けるボランティア 不幸を招くボランティア. 河出文庫, 2017. 3) 西條剛央:人を助けるすんごい仕組み. ダイヤモンド社, 2012.				
評価方法	授業への取り組み 50%、プレゼンテーション 10%、課題レポート 40%				
メッセージ	「ボランティア」という言葉が持つ幅広い意味を体系的に理解し、社会活動におけるその可能性を体感して欲しいと考えています。ボランティア活動は基本的に「必要な場面」で「できること」を「自発的」に行なうものです。その実践において「対話」「信頼関係」「協働」を意識することで、支援者・被支援者が共にその成果を喜び、お互いが成長することができる活動となります。				